

体験講座

沖縄国際大学
経済学部

2020年7月19日(日)

担当:小濱武

自己紹介

小濱 武 (こはま たける)

趣味:将棋、コーヒー、バーベキュー、釣り

好きな食べ物:たこ焼き

○主な担当科目

マクロ経済学、**日本経済論**、日本経済史など



日本経済論とは??

○経済学の目的

マシな世界を作る！

⇒そのためにやるべきこと

- ・社会経済の仕組みを知る
- ・世界で起こっている社会経済問題を知る
- ・**世界の望ましい姿について考える！**

日本の経済社会について実践！

なぜみんな集まって仕事をしているの??

工場制

- ・賃金を対価として雇用された労働者が、工場で経営者が課す規律に服して集団的に働く生産組織
- ・工場制が工業生産において大きな意味を持つようになった画期
= 産業革命

- 18世紀末、イギリスの織物工業の活況（モスリン需要の増加）

⇒材料となる綿糸を効率的に生産する新しい紡績機の発明

※新しい紡績機（ジェニー、ミュール）＝水力や蒸気機関で動く

↑動力面で**規模の経済性**＝動力源の近くに多数の機械を設置したい

⇒多数の労働者を工場に集めて、経営者の管理下で働かせるという

工場制の導入が必要に

○工場制の本質＝「ヒエラルキー」

(By スティーブン・マーグリン)

・工場経営者が労働者の生産活動を管理 ⇔ 自営業者

【これまでの考え】新しい技術(ミュール紡績機など)には規模の経済性
→工場制という生産組織を必要とした

【マーグリンの考え】経営者は労働者を管理したい

→工場制を採用(労働者を集めて「規律と監督」)

○マーグリンの方法:工場制の形成過程を検討

⇒労働者の生産に対する管理権は、問屋制と工場制の2段階で喪失

①直接生産者:自分で原材料を調達し、製品を生産・販売

②問屋制:問屋が労働者に原材料(道具)を貸与し、労働者は自分の作業場(家)で製品を生産

⇒問屋はそれを回収し、労働者に工賃を支払う

※労働者は生産物の管理権はないが、働き方については自分で管理

③工場制:労働者がどのように働くのかという生産過程に関する管理権も工場経営者が掌握

○マーグリンの研究のポイント:

技術変化に先行して生産組織の変化が生じた

💡 技術は変わらないのに、①→②→③の変化が起きた事例を確認

⇒ということは、技術が生産組織(①や②や③)を決定するのではない!

では、なぜこうした変化(①→②→③)が起きたのか?

⇒「**規律と監督**」を与えて生産性を高めるため

(=労働者の**搾取**を強化するため)

⇒この生産組織(=工場制)が求めるような技術が社会から出てくる

△技術が働き方を決める

○働かせ方にあった技術が出てくる

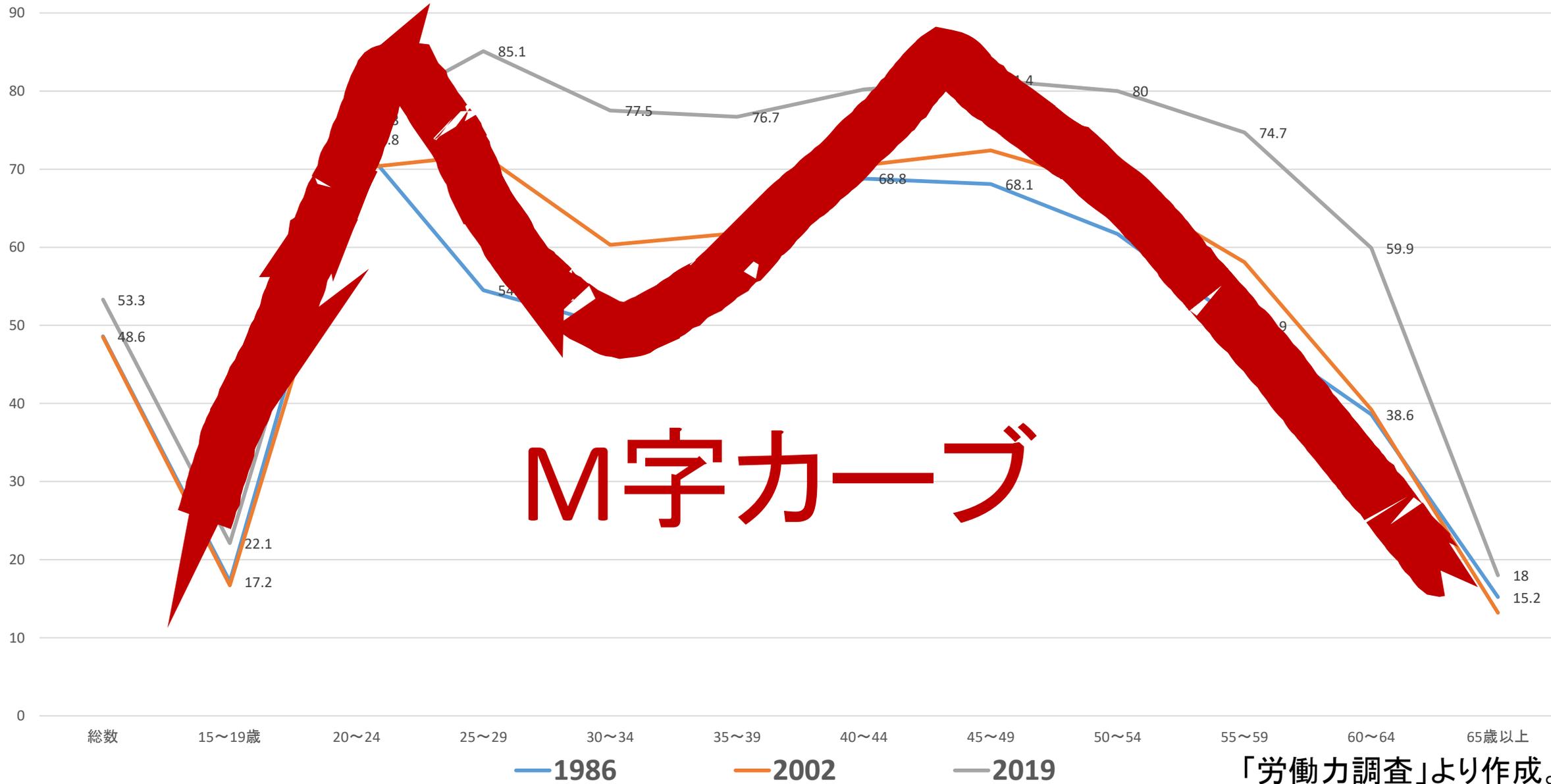
仕事をしているかどうかを確認するため、SNSで頻繁にメッセージが送られてくる

仕事をしている間、PCの画面がランダムに撮影されて上司に送信される

パソコンの利用履歴(ログ)を記録・送信される

カメラとAIを連動、着席しているかどうかAIが判別し、記録する

女性労働力化率



M字カーブ

「労働力調査」より作成。

新
入試科目

経済学部
一般選抜入試選択科目

琉球・ 沖縄史

挑戦!!

万国津梁の魁へ

琉球史



フカク フリ ナドクニ ウチヌイマン ヌスタユティ ミジヤク マヌ グトウ
深く掘れ己の胸中の泉 余所たよて水や汲まぬごとに

お問い合わせ 沖縄国際大学入試センター

TEL 098-893-8945 Email entchr@okiu.ac.jp